

地域デザイン研究科 試験問題

近世以前の日中文化交流史において重要な役割を果たした人物を、1名または2名あげ、その事跡について具体的に述べよ。

出題意図

近世以前の日中文化交流史について、どの程度の基礎知識を有しているかをはかるため。

回答例

近世以前の日中文化交流史において重要な役割を果たした人物の一人として、朱舜水をあげたい。朱舜水は明末の浙江省余姚の人である。名は之瑜、字は魯瑱、また楚瑱。舜水は号である。学問は朱子学を主としたが、空論を排し、経世致用と実事求是を重視した。明王朝復興のため清に抵抗して戦ったが、志を果たせず、日本に亡命した。

当時、日本はいわゆる「鎖国」政策を実施していたため、基本的に外国人の定住を認めなかったが、朱舜水を師として仰いでいた柳川藩の儒者安東省庵が奔走して長崎奉行に働きかけ、長崎奉行から江戸幕府に申請して、朱舜水の日本在留は特別に認められた。

朱舜水は長崎に滞在する間、書簡を通じて安東省庵と親しく交わり、その学問形成に大きな影響を与えた。安東省庵も自らの俸禄の半分を朱舜水に送って、その流寓生活を支えた。

数年後、朱舜水は徳川光圀に招かれて、江戸に移った。徳川光圀は朱舜水を賓客として優遇し、師として仰いだ。朱舜水も徳川光圀の期待に応えて、人材の育成に尽力した。

「学校はまことに天下国家の命脈である」、「国学（藩校）を興すことは、国家の大典であり、貴国においては、なおさら重要である」などと説いて、学校をつくる必要性和教育の大切さを唱えた。

空論を排し、経世致用、実事求是、史学を重視する朱舜水の影響と学問は、水戸学の形成に大きな影響を与えた。徳川光圀は1672年に彰考館を開設し、『大日本史』の編纂を始めた。編纂事業に携わったのは、ほとんどが朱舜水に師事した人物である。『大日本史』の編纂を中心として、尊王賤霸（王道を尊び覇道を賤しむ考え）を主張し、大義名分を重んじることを特色とする水戸学派が、次第に形成された。このことは後に、幕末期の尊王討幕思想の形成にも、大きな影響を与えた。